

スコレ家庭教育振興協会は、「家庭」を基本テーマに学習と活動を行なっている「生涯学習団体」です。1980年（昭和55）の創立以来、「家庭は社会の根」という考えに基づき、さまざまな活動を続けています。この度、会員の皆さま30名が日本語検定を受検してくださいました。同協会が発行している「月刊すこ〜れ 2015年1月号」の記事（すこ〜れNEWS）と参加者の声をご紹介します。

■すこ〜れNEWSより

11月8日（土）、スコレ会館を会場に、通算16回目の日本語検定が実施され、30名の会員と家族が真剣な表情で臨みました。NPO法人日本語検定委員会が主宰する同検定にはスコレ協会も後援団体として応援を惜しみません。

5名以上の受検者があり、主催者からの信頼厚い団体には会場を自由に設定できる特別団体受検が認められており、今回はスコレ協会としては初の試みとなりました。

日本語の総合的な能力を測る趣旨のもと、文法・敬語・語彙・漢字・表記・言葉の意味、6つの領域から出題されます。

試験慣れしている20代〜30代は、「なんのこれしき」と余裕の表情、対するシニア世代は久しぶりの問題解答にチャレンジとあって、緊張感のあまり、苦戦を強いられたお父さん方もいました。「思ったより難しい」「ワープロに慣れているので手書きではすぐ漢字が出ない」の感想も。家族そろっての受験者は「思いがけず家族の絆を実感しました」と笑顔で楽しそうでした。



■参加者の声

男性会員

「娘2名と夫婦で参加しました。娘たちは出来たとも出来ないとも言いませんが、家族全員で共通の課題にチャレンジした喜びを味わっています」

「このところ緊張して試験を受ける機会がすくなかったため、少し疲れたけど、終わってさわやかな解放感を味わいました」

女性会員

「そのうちホームページに解答が出るそうです、わくわくしています」

「普段何気なく使っている漢字ですが、場面に応じて使い分けしないといけないことを改めて認識しました」

「これからは意識して日本語を読み書きしないといけないなと思います」